

雲をつかむ 原美術館／原六郎コレクション

第2期[秋冬季] 2022年9月10日(土)－2023年1月9日(月・祝)

原美術館ARC 現代美術ギャラリー

Gallery A

中村 一美「オレンジの破風」

カンヴァスに油彩 1990年
182.2 x 350.2 cm

榎倉 康二「干渉(STORY - No.16)」

綿布、アクリル塗料、アクリル絵具、木
1991年 248.5 x 333.3 cm

李 禹煥

「対話」
カンヴァスに油彩、岩絵の具 2012年
227 x 182 cm

「対話」
カンヴァスに油彩、岩絵の具 2012年
227 x 182 cm

堀 浩哉「ローマで鳥を見た 12」

カンヴァスに和紙、墨、アクリル絵具、
岩絵具 1991年 227.3 x 546 cm

白髪 一雄「無題」

カンヴァスに油彩 1964年 92 x 73 cm

吉田 克朗

「触 86-11」
紙に黒鉛、木炭 1986年 100 x 80.5 cm
「触 87-9」
紙に黒鉛、木炭 1987年 100 x 80.5 cm

リチャード ロング「ストーンサークル」

石(29個) 1980年 280 cm(直径)

Gallery B

トレイシー モファット「天上へ」

写真印刷(オフセット印刷) 1997年
各72 x 114 cm(シート)

鳴海 暢平

「嗅景-ドッグカムプロジェクト(香港)」
デジタル写真 1997年 各36 x 50.4 cm

シンディ シャーマン

「アンタイトルドフィルム スティル」
写真 1978年 21 x 26 cm
「アンタイトルドフィルム スティル」
写真 1980年 26 x 21 cm

宮島 達男「時の連鎖」★

発光ダイオード、IC、電線
1989/1994/2021年 22 x 475 x 4.7 cm

クレス オルデンバーグ

「ソフトスクリーン」
ウレタン、木製台 1976年
29.5 x 29.5 x 116.5 cm

奈良 美智

「My Drawing Room」★
ミクストメディア 2004/2021年
312 x 200.5 x 448 cm

東芋「真夜中の海」★

ビデオインスタレーション 2006/2008年
4分ループ

Gallery C

ジョナサン ボロフスキー

「割れたピカソの夢」
リトグラフ、シルクスクリーン 1990年
143.5 x 100.3 cm
「ベルリンの犬の夢」

リトグラフ、鉄、アクリル 1986年
86.5 x 106.5 cm
「チャタリングマンと6枚のドローイング」
木、アルミニウム、モーター、スピーカー、
紙にドローイング 1987年 サイズ可変

加藤 泉「無題」

木、油絵具、アクリル絵具、石
2008年
42 x 42 x 168 cm

大野 智史「prism violet」

カンヴァスに油彩 2007年
130.5 x 324 cm

加藤 泉「無題」

木と石にアクリル絵具、ステンレス、
ガラスカバー付き木製ケース 2019年
115 x 20 x 20 cm

横尾 忠則「誰か故郷を想わざる」

カンヴァスにアクリル絵具 2001年
227.5 x 182 cm

名和 晃平「PixCell [Skull]」

ミクストメディア 2003年
23 x 26 x 29 cm

増田 佳江「遠い歌 近い声」

カンヴァスに油彩 2012年
194 x 259 cm

アンリ ミショー「無題」

硬質板に油彩 1952年
41 x 51 cm

ジャック モノリー

「私は別の人生を生きた」
カンヴァスにアクリル絵具 1969年
164.5 x 246 cm

森 弘治「美術のための応援」

ビデオインスタレーション、シングルチャンネル
ビデオ(ループ)、ステレオサウンド
2006年
1分41秒(part.1)
2分17秒(part.2)
5分58秒(part.3)

草間 彌生

「ミラールーム(かぼちゃ)」★
ミクストメディア 1991/1992年
200 x 200 x 200 cm

展示室外

三島 喜美代

「Newspaper - 84 - E」
セラミック、シルクスクリーン 1984年
105 x 74 x 102 cm

原美術館 ARC では、昨年の「虹をかける」に続き、今年も作品制作や鑑賞のあり方の一端を表す言葉を当館の豊かな自然環境に求め、「雲をつかむ」と題し、「原美術館コレクション」(現代美術)と「原六郎コレクション」(東洋古美術)を春夏季と秋冬季の2期に分けて展覧します。原美術館 ARC の広い空には、西の山の向こうから雲が現れてはかたちを変えながら流れていきます。雲水を眺めながら作品の意図をつかもうと次から次へと考えを巡らせる——ここは、そのような場所です。



ギャラリー内での撮影、飲食はご遠慮ください。

また、作品に触れることはできません。小さいお子様は大人の方と手をつないで鑑賞下さい。

★印はセミパーマネント作品(大型インスタレーション)です

※会期中に展示作品が変更となる可能性があります